

産官学が連携！ 幻のお茶『碁石茶』の ブランド化による山村の元気復活

急峻な傾斜地を有する山村の高齢化が進む集落において、年間を通して寒暖の差が大きい地域の特殊な気候を活かした『碁石茶』の生産・加工を、大豊町碁石茶生産組合が展開。産官学連携による効能・価値の再発見や販路の拡大を実現し、一時は1戸にまで減少した農家が9戸にまで回復している。地域固有の希少作物の地域ブランド化を図り、安定供給・流通化を推進している。



背景と課題

生産農家一戸からの復活

大豊町は、四国山地中央部の山間地域（標高200～1,400m）に位置し、急な傾斜地を有する山村地域である。大豊町で古くから伝わる『碁石茶』は、「幻のお茶」と評され、古く中国雲南省より製法とともに伝来し地域の主要産物として根付いていた。

しかし、時代が変遷し、昭和の後半には大豊町の過疎・高齢化が進み、生産者が減少。昭和50年代にはわずか1戸、その後1戸の農家が再開したものの2戸で3haの栽培にとどまり、かろうじて傳承されている状況であった。



取組のきっかけ

文化伝承の必要性和効能の発見

そのような状況のもと、平成4年に町の教育委員会の文化財担当者が、碁石茶を町の文化として傳承してゆかねばならない、いかにしてこれを守り文化を伝えてゆくかという視点で、碁石茶研究の取組が始まった。平成11年から14年にわたり県の工業技術センターと高知大学とが共同で地域資源の高度利用を目的として碁石茶の研究が行われた。その結果、碁石茶はコレステロール値の低減に効果があることがわかり、これが新聞やテレビなどのメディアで取り上げられ、碁石茶の普及が強く推進された。



大豊町碁石茶生産組合

所在地：〒789-0392

高知県長岡郡大豊町

高須231（大豊町農業センター内産業建設課）

連絡先：0887-73-0978

FAX：0887-73-1004

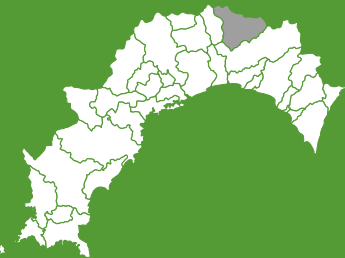
高知県大豊町

総人口：5,315人

高齢化率：51.8%

世帯数：2,684世帯

総面積：314.94 km²





取組と成果

『碁石茶』の成分研究と生産効率の向上

取組1

碁石茶の成分・効能の研究

平成11年～14年にわたり県工業技術センターと高知大学が共同で地域資源の高度利用として碁石茶をとりあげ、生産意識向上の観点から、碁石茶の成分と効能の研究が行われた。

取組2

栽培、製茶技術の向上

高知大学農学部では、栽培、製茶技術の向上を図るため、各生産者の生産工程の調査を行い、作業工程ごとの製造指針の検討、作成に取り組んだ。

取組3

第3セクター会社の設立

大量生産による品質の平準化と価格の低廉化を実現させるため、第3セクター『大豊ゆとりファーム』を設立。また、茶園の整備、後継者の育成のため、地域グループ等と連携し碁石茶による新たな特産品開発に取り組んだ。

成果

効能の発見

碁石茶の効能研究の結果、コレステロール値の低減に効果があることが発見、証明された。

メディア効果

効能研究の結果に「健康ブーム」といった社会背景が加わり、新聞等のメディアによる広報・PRが行われ、世間に広く普及した。

農家の復帰、栽培・製茶技術の向上

平成14年以降、大豊の茶農家全9戸が生産に復帰し碁石茶の生産を開始した。平成17年には約6haの茶園から生産された茶葉を使用し、生産者全体で5,500kgの碁石茶の製造に至る。

“本場の本物”に認定

財団法人地域産業センターによる、「平成18年度“本場の本物”」に認定。全国9製品の1つに選ばれる。

〈碁石茶による特産品〉



茶粥・碁石茶



碁石茶められ



碁石茶膳